

# 北成病院季刊広報誌 ほくせい

医療法人社団 延山会  
+ 北成病院  
広報編集委員会

〒001-0933  
札幌市北区新川西 3 条 2 丁目 10-1

秋号

TEL 011-764-3021

FAX 011-764-4331

URL <http://hokusei-hp.or.jp/>

## 『糖尿病教育入院』 8月よりスタート!



糖尿病と上手に付合うためには、ちょっとした**コツ**があります。それは何か？  
例えば、ある人と仲良く付合っていこうと思った時、あなたはどうしますか？  
まず、相手がどんな人か知ろうとするでしょう。そして、一緒にいて楽しい関係  
を作ろうと努力するでしょう。糖尿病も同じです。なぜ血糖は上がるのか、なぜ  
血糖が高いままだと良くないのか、どうしたら血糖は下がるのか**まず知ること**  
です。そして、「食事制限」とか「毎日の運動」、「インスリン注射」といった病気の  
悪いイメージや誤解を取り除くことが必要です。そのために、この『糖尿病教育入院』は  
とてもいい機会になるでしょう。  
(糖尿病教育入院担当医師:垂水隆志)

### ◎糖尿病教育入院の概要は……



- 1 入院期間:10 日間 (入院日は毎週月曜、退院日は翌週水曜)
- 2 次のことを知るために検査をします。
  - ・血糖は 1 日の中でどのように変化しているのか？
  - ・あなたにとって最良の治療法は？
  - ・糖尿病による合併症(腎臓の障害や動脈硬化)が進んでないか？
- 3 糖尿病について、その治療について勉強します。
  - ・あなたの食生活を見直し、食事療法のコツを一緒に考えます。
  - ・無理なく日常的に続けていける運動法を探します。
  - ・飲み薬やインスリン注射について勉強します。
- 4 選任のスタッフ(医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、作業療法士)が担当します。



**糖尿病は生涯にわたって付合う病気です。**ひとりでは辛いことも、私たちスタッフや家族の方々と一緒に付合っていけば、健康で楽しく充実した毎日を送ることができるでしょう。『糖尿病教育入院』について、もっとお知りになりたい方はどうぞお気軽に職員に声をかけて下さい。

### 理 念

日々研鑽を積み、全人的対応をもって、良質な医療を提供し、組織一体となって地域社会に貢献することを目指します。

### 基 本 方 針

1. 私たちは、医療人としての自覚を常にもち、切磋琢磨してチーム医療を実践します。
2. 私たちは、急性期から慢性期まで、患者様の立場に立ち、真心こめた医療サービスを提供します。
3. 私たちは、患者様の権利と安全を重視し、地域の皆様から信頼される病院づくりを目指します。
4. 私たちは、経営の健全性を高め、安定した病院経営を続けられるよう努力します。

# 下肢の動脈硬化と血管エコーについて



今年、道から北海道医療計画が発表されました。

その中で特に中心的に取り組む病気としてがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4疾病が上げられております。これらの病気はいずれも有病率が高く、日本人の死因に大きくかかわっていますが、これらの病気に対する理想的な医療体制が整っているとは言い難い現状があります。このうち脳卒中、急性心筋梗塞は動脈硬化が進行した結果の病気であり、糖尿病は動脈硬化の重要な危険因子のひとつであります。

脳卒中になれば多くの場合、半身不随となり、医療費の負担が大きくなりますし、心筋梗塞も様々な合併症から、日常生活が制限されるようになります。動脈硬化の段階では症状に乏しいため、動脈硬化は、英語でサイレント・キラー（沈黙の殺人者）と呼ばれております。



健康でピンピンしているためには、動脈硬化の予防・治療が大切です。動脈硬化になりやすい体質の人とそうでない人がいることが大規模な疫学調査（Framingham Heart Study 等）で示されております。なりやすい体質のことを危険因子といいます。その代表的な危険因子として喫煙・肥満・糖尿病・高血圧・脂質異常・加齢・性別・家族歴があげられております。加齢や家族歴などは人間の力ではどうにもなりません、動脈硬化の危険因子の多くはコントロール可能です。すでに心筋梗塞や脳卒中を発症した人はそうでない人に比べて再発しやすいことがわかっており、再発予防のためには、さらに危険因子を厳重に管理することが重要とされています（再発予防の治療を二次予防と言います、これに対し初発の病気の予防を一次予防と言います）。動脈硬化は全身の病気ですから、脳卒中になった人は心筋梗塞になりやすく、また、心筋梗塞になった人が脳梗塞になっても不思議ではありません。

**動脈硬化は全身の疾患**ですから、心臓や脳だけでなく、頸動脈や腎動脈などいろいろな臓器に起きてきます。足の血管にも動脈硬化はみられ、閉塞性動脈硬化症（ASO : Atherosclerosis obliterans）と言われております。最近では欧米にならって、足などの動脈硬化による病気を**末梢動脈疾患**（PAD : Peripheral Arterial Disease）という疾患名で呼ぶのが一般的となってきました。この病気は動脈硬化によって足の血管が細くなったり、詰まったりして、血液の流れが悪くなり、足先へ栄養や酸素を十分に送り届けることができなくなる病気で、進行すると足にさまざまな障害が現れます。足が冷たい、しびれる、足先が青白いなどの症状や間欠性跛行などの症状がみられますが、無症状の人や症状があっても自覚していない人が少なくありません。

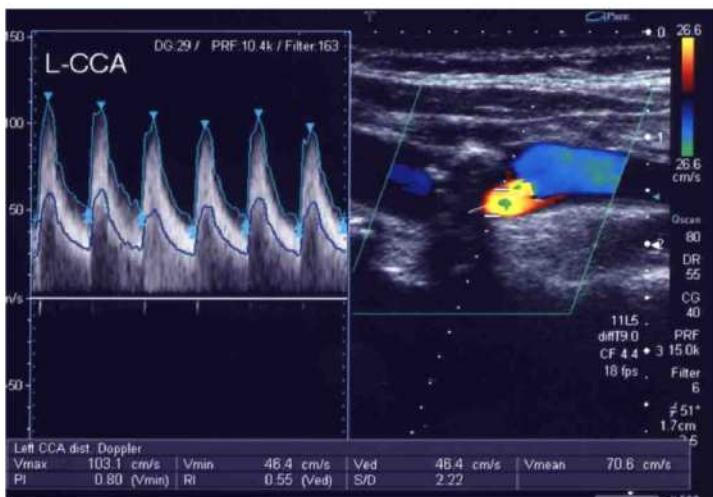
**間欠性跛行**とは「少し歩くと足が痛くなって歩けなくなるが、しばらく休むとまた歩けるようになる」という症状ですが、人によっては年齢のせいだと思っていたり、体力が低下しているから仕方ないとかあきらめている方もいるようです。また、車社会になり、長い距離を歩くことがないために気づかずに過ごしている方もいるようです。また、足の痛みは感じずにだるさや疲れだけの症状の方も多ようです。足が疲れて歩けないといったごく普通の現象のなかに症状が隠れている場合がみられます。さらに**症状が進むとじっとしていても足が痛む、足が痛くて寝れないといったことがみられるようになり、さらには足の指に潰瘍といって腐った皮膚の欠損が起きたり、血液が完全に途切れて黒くミイラ化したりするようになります。**安静時の痛みや潰瘍を伴うようになると重症虚血肢（CLI : critical limb ischemia）と呼ばれ、足を切断することとなったり、合併症を起こして命を失うことも多くなります。そのような場合の治療法としてその程度に応じて危険因子の管理や薬物療法・運動療法を始め、必要に応じて血管内カテーテル治療や血管バイパス手術がされることとなります。





## 自分の動脈硬化がどこまで進んでいるのか？

頭の血管はMRIを撮ると微小な脳梗塞は分かりますが、血管の内皮にある動脈硬化そのものは撮影不可能です。心臓を養っている冠動脈は血管造影をすれば血管の狭窄度は明らかになりますが、動脈にカテーテルという管を入れる侵襲を伴うこととなります。しかし、首の血管(頸動脈)や脚の血管(大腿動脈)を超音波で検査することにより、動脈硬化を直接観察することが可能です。また血圧脈波検査装置(フォルム)を使用して手足の血圧を測定することにより動脈硬化を間接的に評価できるようになって来ました。血管エコーはそれなりの知識と技術は必要ですが、患者様の負担は少なく、放射線の被曝もなく、繰り返し検査が可能です。血管内カテーテル治療をおこなう場合は、血管エコーで末梢動脈疾患(PAD)を診断して、エコーガイド下でカテーテル治療をおこない、術後の評価を血管エコーでおこない、さらに外来にて血管エコーで経過観察をおこなっているといったこともあります。今後、高齢化医療が進むなか、動脈硬化性疾患は増加する一方で、無症状の間に早期発見、早期治療を心がけ、健康な生活を過ごしていくようにしたい。そのためには血管エコーで低侵襲な検査をおこない、全身の動脈硬化の程度を把握して、その程度に応じた危険因子の管理が求められてきているようです。



## 血管エコー

この写真は頸動脈の血管エコーですが、血液は左から右に流れていてちょうど真ん中にプラーク(動脈硬化)があり、血液の流れがせばまっている様子が出ています(写真右側の黄色の部分)。写真の左側が血管内の血液の流れを示し、狭窄病変のあるところでは加速血流といって血液の流れが速くなります。

(西成病院副院長：吉江浩光)

## 部署紹介

## ～事務室(管理課)～



管理課を、紹介させていただきます。

課員は、5名おります。その内常勤は2名で設備管理と、花川方面の送迎バスの運行を行っています。残り3名は、夜勤の警備員です。

管理課は、患者様が快適に通院や入院生活が出来るよう施設、設備を点検、修理を行っています。排水の詰まり、蛍光灯の交換、廊下の補修、駐車場の補修、清掃、雑草刈り、その他器具の修理等、依頼があればいち早く要望に応えるように勤めております。現在は花川方面のみしか、患者様の送迎を行っておりませんが、定時に運行できるよう勤めております。夜勤では、入り口の施錠、開錠、急患の対応等など行っております。これからも、快適に通院や入院が出来るよう勤めさせていただきます。ご意見、ご要望等ありましたらお気軽にお話し下さい。

(管理課主任：土田 三男)

# 新人・医療ソーシャルワーカー紹介



医療ソーシャルワーカーの紙本です。  
 以前は全く違う業界で働いていましたが、今年の春に学校を卒業し、4月から医療相談室に勤務しています。  
 仕事ではいろいろ大変なこともあります、楽しく働いています。  
 なにか不安なことや困っていることなどあれば、患者様や御家族の方と一緒に考えて行きたいと思っています。  
 いつでもお気軽に声をかけて下さい。



## インフルエンザワクチン接種開始！！

10月も過ぎ、いよいよ北海道は寒さ対策の時期になってまいりました。  
 当院では今年もインフルエンザワクチン接種を10月14日より開始しており、料金につきましては下記の通りとなっております。インフルエンザの予防に是非ご利用下さい。(要予約)

- ①一般 ..... 3,000円
- ②13・14歳（1回接種につき） ..... 3,000円
- ③札幌市内在住（65歳以上の方） ..... 1,000円
- ④“③”の方のうち生活保護または市民税非課税世帯（証明書必要）... 無料

（札幌市の料金補助を受けられる期間はH20.10.1～H20.12.29です）  
 （13・14歳：医師の判断により2回接種あり）

※10名様以上の団体で接種を受けられる方はご相談に応じます。

※当院では12歳以下の方は接種していません。



### お知らせ

10月1日より、旧売店場所を『**掲示室**』としてオープン致しました。血圧計もご用意しておりますし、椅子やテーブルも設置しておりますので多目的室として御利用下さい。

### 編集後記

暖房の季節がやって来ましたね。室内の乾燥にて、皮膚のカサカサとかゆみなど不快な思いをすることが多くなるでしょう。入浴後などの保湿クリームは勿論ですが、石鹸の使い方も工夫すると（泡々でこすり洗いをしない）皮膚の保湿効果が高くなるので試してみてください。  
 （編集委員：佃直子）



### 北成病院概要

- 診療科目：内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・放射線科
- 病 床：一般病床 58 床（I 群入院基本料 2）  
 療養病床 64 床（療養病棟入院基本料 1）  
 介護病床 22 床（療養型介護療養施設サービス費 I の ii）

### ～ 患者様とご家族の権利 ～

1. 基本的人権と人格を尊重される権利
2. 思いやりのある、良質な医療を公平に受ける権利
3. 適切な情報提供や十分な説明を受ける権利
4. 納得のもとに、検査や治療を受けるか、受けないかを決定する権利
5. プライバシーを保護される権利
6. 健康であるために情報を求める権利
7. 他の医師に診断を受け、治療法についての意見（セカンドオピニオン）を聞く権利

